

パートナーシップで、安心・安全な工事現場へ

SDGsラジオを読んでみよう！

みなさんが住んでいるおうち、通っている学校の校舎、よく行くショッピングセンター。これらの建物は、数か月から数年をかけて、延べ何百人、何千人という人々のチームワークによってできあがっています。だからこそ、スーパーやショッピングセンターなどの建物をつくらせている「商業施設建築のスペシャリスト。建設会社のイチケン」は、工事現場で働くすべての人々が、安心・安全に仕事を進められるように取り組んでいます。 「安全第一主義」で、ものづくりのパートナーである協会の会社の方々と、安全対策はきちんと行われているか？作業が正しいルールや手順に沿って進められているか？など、色々なことに目を配って、事故や災害を起こさないための活動をしているんですよ。 また、協会の方が安心して働けるよう教育などの支援も行っています。 一緒にがんばるすべての人を大事にする。 みなさんも、周りの友達を大事にする大切さについて、改めて考えてみましょう。

SDGsラジオの内容を、もっと詳しく知ろう！



がぞうさんしょう こうじげんば あんぜんじゆんかい ようす 画像参照：工事現場での安全巡回の様子 (イチケン公式HPより)

工事現場は、クレーンやブルドーザー、ショベルカーなどの大きな機械や電動工具を使ったり、高い場所や足場が悪いところで作業したりと多くの危険がひそんでいます。そのため他の職場に比べると、労働災害が起きやすいとされています。このリスクに対して、全国のショッピングセンターやスーパーマーケットなどの商業施設を中心に、さまざまな建物をつくらせている「建設会社のイチケン」では、「安全第一主義」を理念に、労働安全衛生法などの法律を守り、無事故・無災害を実現するためにいろいろな取り組みをおこなっています。そのひとつとしてイチケンでは、工事現場で働く人々が安心・安全に働けるように、定期的に現場をパトロールし、事故や災害が起きないようにする活動を行っています。また、健康管理にも気をつけて、体調のチェックやこまめな休憩、休憩室の温度管理などをして、熱中症を防ぐこともこの活動のひとつです。



がぞうさんしょう あんぜんえいせいたいかい ようす 画像参照：イチケン安全衛生大会の様子

さらに、毎年7月の「全国安全週間」では、全国の工事現場で安全衛生大会を開催しています。イチケンの社員だけでなく、工事現場で一緒に働く協会の会社の人たちも参加し、「みんなで協力しながら、さらに安全な職場環境をつくっていくこと」を誓い、安全意識の向上を図る機会としています。ひとつの建物が完成するには、数か月から数年かかることがあり、何百人、大きいものでは何千人というものづくりのプロたちが関わっています。そして、それぞれが専門性を発揮することではじめて、建物が建てられるのです。だからこそ、「工事現場で一緒に働くすべての人を大切にすること」はとても大事。イチケンの姿勢・考え方は、SDGsの目標17「パートナーシップで目標を達成する」につながる、とてもすばらしいアクションなのです。

キーワード

労働災害

「労災」とも言い、仕事が原因で労働者がケガをしたり、病気になったりすることをいいます。

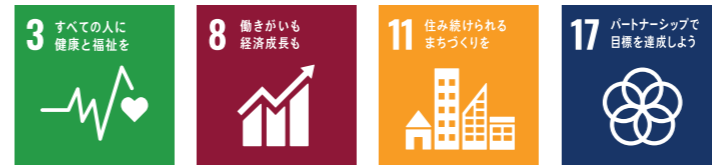
労働安全衛生法

労働者の安全と衛生についての基準を定めた「法律」です。

全国安全週間

毎年7月に、「職場でのケガや事故を防ぐための大切さ」をもう一度確認し、安全に働くための活動に積極的に取り組む期間のことです。

対象ゴール



みなさんにできること！

工事現場での事故や災害、ケガをしないためには どうすればいいか、考えてみましょう。

おさらい

- 工事現場はとても危険な職場であることから、働いている人々の安全を確保することが大切。
- 工事現場では「安全」だけでなく、工事に携わるすべての人が「健康」であることも重要。
- イチケンでは、協会の会社の人も含めた全員で安全意識を高く持つことを大切にしている。

メモ

